

## 5. 暮らしと自然がある〈ヒューマン・スケール〉のまちづくり

青山を研究する会

(東京都港区)

東京オリンピック開催の5年前、窓から見える青山墓地の風景に惹かれて、住まいをかまえました。みどりの杜が、南から東へ、東から北へとパノラマにひろがる借景がありました。

以来、35年間、変わりゆく青山を目のあたりに見て参りました。そうした中で、80年代半ばからのバブル期の乱開発は、私にとって衝撃的な出来事でした。地上げ、底地買いの横行 → 住宅がこわされる → 庭木が倒される → 空地になる → オフィス・ビルが建つ。周辺が急速に変わっていきました。

しかし、私の家と周りの一角は、複雑に入り組んだ地形が幸いしてか、からくも乱開発からのがれることができました。あらためて、身の回りをながめると、まだ残されている宝物があることに気がつきました。パノラマにひろがる風景はなくなりましたが、青山墓地の緑の空間を感じることはできるのです。それは、朝の目覚めどき、墓地をねぐらにする雀の啼き声をきくときに感じます。

家を一步でると、そこは路地の空間です。高低起伏する大地がつくる坂や階段、車の入らない路地こそ、私が住むマチの基盤です。

路地には、樹木や草花、花の中を飛び交う花アブや蝶、グレープ・フルーツの葉を食べる青虫、青虫を食べるガマガエル、雨上がりに這うカタツムリ、の植物や小動物をみるすることができます。

路地は、生物が生息するのに適したビオトープ空間なのです。つまり、人間の生存にも適していることがわかります。このように、生物としての私たち人間が生きていく基盤である〈自然〉がまだ残されていることがわかります。

私ども「青山を研究する会」では、近隣に住む方々の協力をえて、残された宝物である〈生活環境の質〉を調査することにいたしました。



ヒューマンスケールの空間

今後、都市化の進む中であって、開発の方法がより問われることになると思います。開発の方法は正しいか、環境変化に異常はないか。私どもの調査・研究は、それらを判断する指針となるかとも考えます。

以下に、私どもの住む長者丸通り北東部における〈自然環境の質〉の調査・研究の項目を箇条書きいたします。

## 1. 長者丸通り、坂のある私の街

### 1) 長者丸通りの自然

- ・ 等高線でみる三つの舌状台地
- ・ 高低起伏する我が家のまわり
- ・ 段坂のある風景
- ・ 車が通らない路地空間
- ・ 地形に導かれた敷地割と建物（起伏する大地がつくる敷地割と建物）
- ・ ケバ描き地図でみる湧き水と井戸

### 2) 青山墓地と根津美術館の自然の度合いを、

- ・ 青山墓地の井戸のあとから調べる。
- ・ 青山墓地の樹木と表土から自然の度合いを推測する。
- ・ 根津美術館の湧き水と池を観察する。多孔質空間とビオトープ空間。

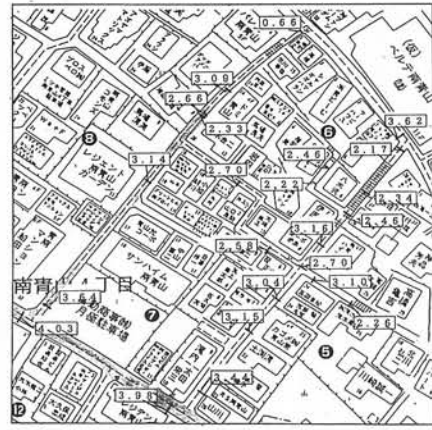
## 2. 私の庭

### 1) 路地に沿った1メートルの幅の小さな庭がフィールド。

- ・ 花の咲く順序を調べる。

### 2) それぞれの人々にとって、私の庭はマイクロコスモス。

- ・ インタビュー調査。



ワークショップ「道幅を測る」

### 3. 南青山4丁目の猫

#### 1) 猫の行動調査

- ・猫は、いつ、どこで、何をしているか。(イラストと説明文で表現)

#### 2) 今は亡きなつかしい猫たち

- ・猫を介して行き来する近所隣り同志の座談会。

#### 3) 野良猫の話

- ・エッセイ

### 4. ゆかりのある文学者と作品の背景

#### 1) 500平方メートルの範囲に住んでいた(住んでいる)5人の文学者の住居の場所と、略歴、作品について調べる。

#### 2) いつごろ、どのくらいの間住んでいたか(住んでいるか)年表を作成。